

平成30年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立淀川中学校

平成31年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

ここ数年、自尊感情が低いこと、社会事象に対する関心が高くないこと、家庭での学習習慣が身についていないことが本校の課題として挙げられてきた。そのため本校の教育内容を見直し、職業体験学習、地域と合同での防災学習、発達段階に応じた性教育、読み物教材を中心とした道徳授業の推進、現代の世界情勢を考える人権学習など、生徒の体験を重視した取り組みの実施を図ってきた。そのため新しく追加したり、従来の取り組み内容を見直したり、工夫改善を行ってきた。また、学力の向上についても、生徒自らが考える授業の充実や自主学習プリントの作成などに取り組んできた。その成果については生徒アンケート等で検証を行い、分析を行っているが、少しずつであるけれども、その成果が見られてきている。今後も現在行っている取り組み内容を見直し、工夫改善を重ねることが大切である。

さらに、教職員研修を充実させ、いじめ・不登校の克服に向けての取り組みを推進する。単なる問題の事象だけでなく、その背景や生徒の内面を深く理解しながら、生徒自らが内包する問題に気づき、克服するための力の育成を支援できる教職員体制づくりに努めることが必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成28年度より15%向上させる。
- 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 平成32年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を平成29年度からの4年間で10%向上させる。
- 平成32年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を70%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割以上の生徒の割合を平成28年度より10%向上させる。
- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成28年度より向上させる。
- 平成32年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を40%以上にする。
- 平成32年度3学期における授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年減少させ、平成33年度調査において10パーセント以下にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 30 年度末校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 29 年度より 15%向上させる。
- 平成 30 年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 平成 30 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を 50%以上にする。
- 平成 30 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 70%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成 30 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 30 年度の中学校チャレンジテストにおける得点が市平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 30 年度の中学校チャレンジテストにおける得点が市平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 30 年度校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点が男女とも大阪市平均を上回る。

学校の年度目標

- 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の 7 割以上の生徒の割合を平成 29 年度より 10%向上させる。
- 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成 29 年度より向上させる。
予習・復習となっている
- 平成 30 年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を 40%以上にする。
- 平成 30 年度 3 学期における授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。
- 平成 30 年全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を前年度より減少させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

今学校に求められる新しい学力観「主体的・対話的で深い学び」についての考えを深め、教職員間で共通理解するように努め、I C T機器を積極的に取り入れたり、調べ学習の実施、意見発表や討論を中心とした授業、また班別学習などを計画的に行っている。さらに継続的に行うことによって、今後の着実な成果につなげることが必要である。

来年度から特別な教科「道徳」が週1時間、年間35時間の授業が行われることとなっている。充実した授業を実施するため、来年度から使用する教科書の読み込みを中心とした研修を行い、教材ごとの内容項目の共通理解を図ることが大切である。

来年度からの校舎建設工事により、生徒の安全な学校生活の確保に向けてきめ細かな取り組みや行事の見直しなどが迫られる。その進捗状況に合わせた長期的な見通しとそれに基づく短期的な計画をうまく融合させることが大切である。

大阪市立淀川中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○平成30年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○平成30年度末校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成30年度の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成29年度より15%向上させる。</p> <p>○平成30年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。</p> <p>○平成30年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>○平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にしている」と答える保護者の割合を70%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>あいさつ運動や遅刻をなくし、規則正しい学校生活を促進するための取り組みを行う。</p> <p>指標 各学年1名以上の教員、その他地域の皆さんの協力を得、登校指導を充実させる。また、教員のスキルの向上を目的とした生活指導、特別支援教育に関する研修を年間、複数回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>規範意識や感謝の心、自他を尊重する心を育てるための取り組みを行う。</p> <p>指標 各学級とも年間35時間の道徳授業を実施する。また各学年とも発達段階に応じた性教育・人権学習を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>自らの将来について考える心を育てるため、キャリア教育を推進し、充実させる。</p> <p>指標 1年生で職業講話、2年生で職業体験、3年生で高校体験授業を実施する。</p>	B
<p>取組内容④【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>学校の情報を積極的に公開し、地域・保護者の信頼を得られるように努め、密接な協力関係</p>	B

<p>を構築する。</p> <p>指標 週1回以上、ホームページを更新する。また校長室だより、学年だより、学級だより、保健だよりを定期的に発行する。地域と合同で防災学習を実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>全市共通目標</p> <p>①本年度の認知件数は8件 全ての案件について指導継続中(見守りも含む) いじめについては大阪市の方針に従い、一時的な解決だけではなく、その後の継続的な見守りを重視し行っている。</p> <p>②12月実施の学校アンケートの結果 当てはまる 45.1% どちらかといえば当てはまる 43.6%</p> <p>③昨年度 1件 本年度 2件</p> <p>④昨年度 2 本年度 7</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 前 昨年度 後 今年度 (当てはまる) 21.6% 22.8% (どちらかと言えば・・・) 42.3% 47.5% 学校アンケート 28.6% 21.4% 34.8% 35.8%</p> <p>② 昨年度 26 今年度 29 不登校、虐待事案等については組織的な取り組みを行い、関係諸機関とも必要に応じて連携をとってきた。その結果問題の解決に向かったものもあったが、そうでなかった事案もあった。</p> <p>③ (当てはまる) 39.7% (どちらかと言えば・・・) 34.2%</p> <p>④ (当てはまる) 11.8% (どちらかと言えば・・・) 60.5%</p> <p>取組内容① 教員による登校指導を毎日行っている。あいさつや服装指導、遅刻指導を行っている。遅刻については大幅に減少している。</p> <p>取組内容② 道徳の授業実施については20～27時間と、学年により違いはあったが、目標の35時間には達しなかった。</p> <p>取組内容③ キャリア教育については各学年とも昨年度に続き、ほぼ同内容で計画どおりに実施できた。</p> <p>取組内容④ 校長室だより、学年だより、学級だより、保健だよりに加え、進路だよりも定期的に発行してきた。また、本年度からホームページだけではなく、保護者緊急メールも準備し、災害時などで活用してきた。本年度は地震や台風などで保護者連絡に課題がみられた。</p>	
<p>今後の改善点</p>	
<p>①生活指導としての課題は組織としてだけではなく、個々の教員の意識の向上と生徒、保護者との信頼に基づいた取組が必要である。また、関係諸機関、具体的には区役所、子ども相談センターとのより密接な連携が求められる。</p> <p>②現在の取り組みを継続し、来年度からの道徳の教科化の導入のため、早期に教員の授業体制を整えとともに、学期末ごとの評価がスムーズに行えるよう授業者が各授業の記録を的確に残すよ</p>	

う共通理解する必要がある。

③来年度に向けて、今年度のキャリア教育の各学年の内容について振り返り、各学年の課題に応じた内容を工夫することが必要である。

④毎年学校ホームページの閲覧数は年々増加している。これからも週3～4程度の更新を目指したい。緊急メールの登録数が現在全生徒の5～6割である。その割合をさらに増やしたい。

大阪市立淀川中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が市平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。</p> <p>○平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が市平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。</p> <p>○平成30年度校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点が男女とも大阪市平均を上回る。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成30年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割以上の生徒の割合を平成29年度より10%向上させる。</p> <p>○平成30年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。</p> <p>○平成30年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を40%以上にする。</p> <p>○平成30年度3学期における授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。</p> <p>○平成30年全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を前年度より減少させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>生徒の学習に対する意欲・関心を育て、自主的、意欲的に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>指標 学ぶことの楽しさを実感させる授業を創造するため、ICTの効果的な活用やアクティブラーニングを取り入れた授業を推進する。年間3回全教員による授業研究を実施し、その他授業公開週間を設け、相互授業参観を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>本校生徒の課題である家庭学習習慣を定着させるための取り組みを推進する。</p>	B

指標 各教科授業で復習を中心とした家庭学習のための課題を与える。また学校元気アップ支援員と連携し、生徒が自由に活用するための自主学習プリントを作成する。	
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 自らの健康に関心を持ち、体力の向上に対する意欲を育てるための取り組みを推進する。	B
指標 保健体育授業の充実、さらに生徒による保健委員会を活発化させ、その活動を中心とし、生徒の意識の向上を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
全市共通目標	
① 前 昨年度 後 今年度 3年 99.5 94.1 2年 81.7 78.9 1年 93.4	
② 前 昨年度 後 今年度 3年 20.7 25.0 2年 34.9 44.2 1年（今年度） 22.6	
③ 前 昨年度 後 今年度 3年 29.3 31.3 2年 9.3 15.1 1年（今年度） 15.5	
④ 昨年度・・・49.5% 今年度・・・53.7%	
⑤ 男子 45.84（大阪市 41.72） 女子 47.92（大阪市 50.14）	
学校の年度目標	
① 前 昨年度 後 今年度 国語 81% 90% 数学 73% 72%	
② （当てはまる）12.6% 5.5% （どちらかと言えば）14.4% 21.8% 校内アンケート（今年度） （当てはまる）14.0% （どちらかと言えば）24.9%	
③ （当てはまる）8.2% （どちらかと言えば）19.5%	
④ （当てはまる）18.3% （どちらかと言えば）48.2%	
⑤ 前 昨年度 後 今年度 （あまり食べていない）12.6% 6.9% （食べていない）1.8% 4.0% 学校アンケート 6.9% 9.3% 4.7% 8.2%	
取組内容①②	
○授業力向上のための校外研修会に参加したり、学期ごとに授業参観、さらに意見交換を行う校内授業研修を行い、ICT機器の活用に努め、アクティブラーニングを取り入れた班別学習や言語活動の向上を目標とした討論や発表などを各教科で随時取り入れ、新しい学力観に基づく授業づくりを行ってきた。	
○国語科では「学力向上推進モデル事業」として月2回指導員の方に来校いただき、授業参観、指導助言等をいただき、教員の教科授業力の向上に努めてきた。	
○元気アップ支援員の協力を得て、個々の学力に応じた課題を作成し、学力の向上に努めている。	
取組内容③	
○体育授業を要として基礎体力作りに努めている。また保健授業において健康への意識の向上に努め、また、歯と口の健康教育や学年ごとに「発達段階に応じた性教育」を実施し、体と心の成長についての考えを深められる授業を行った。	

○定期的に保健だより発行し、規則正しい生活習慣や日々の健康についての意識の向上に努めてきた。また、学年集会などを通じインフルエンザ等の感染症予防の啓発を行ってきた。

次年度への改善点

- ①生徒の学習への意欲の向上を図るための工夫が必要である。授業の最初に日々の授業目的を示すことや、学習内容と日常生活との結びつきを意識させるなどが考えられる。
- ②単なる知識理解だけではなく、直面する問題を自らの力で解決するための力を育成するために必要な想像力を養う授業を各教科の特性に応じ、工夫することが大切である。
- ③基礎・基本が身についてない生徒については、個々に応じた教材を作成して計画的に課題を与えるなど、分かる喜びを実感させるとともに確実な定着を図るように努める。
- ④来年度から約5年間、校舎建て替え工事が行われ、十分にグラウンドが使用できない状況となる。体育授業や部活動が制限される。校外の施設の使用なども含め、練習場の確保に努める必要がある。

平成30年度 学校関係者評価報告書

大阪市立淀川中学校協議会

1 総括についての評価

それぞれの項目についての考察及び添付資料による説明により学校の取り組みがよく読み取ることができた。評価として概ね妥当である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【**子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現**】

- ・学校としていじめに対する意識を高め、表面的な解決だけでなく生徒の内面にまで関わる指導を心がけ、長期間にわたる見守りを続けていることは評価できる。これからも継続してほしい。今後とも生徒たちがいじめについて深く考えさせる取り組みを日常的に行ってほしい。
- ・単に決まりを守らせることを目的とするのではなく、決まりは何のためにあるのかを考えさせ、自らが進んで決まりを守ることの大切さに気付かせるが大切である。そして社会について正しく考える姿勢や思いやりの心を育て、さらに自分の生き方について考えようとする態度を培うように努めてほしい。
- ・学校はホームページの定期的な更新をはじめ、校長、学年、保健室等による通信の発行などに努めているが、保護者からの関心はそう高くないように感じる。改善の余地があるのではないかと。
- ・不登校が大きな課題であり、家庭訪問等の取り組みに加え、今年度は特に関係諸機関と積極的に連携していただいたが、ＳＳＷと課題を共有し、ともに連携を図る体制を整えてほしい。

年度目標：【**心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上**】

- ・学校の新しい学力観に基づいた授業の実施など、積極的な取り組みは評価できる。今後も考える力を育成する授業を追究してほしい。
- ・基礎・基本が十分身につけていない生徒には、ひとりひとりのつまずきを分析し、必要に応じた課題を準備するなど、きめ細かで効果的な取り組みを期待する。
- ・小中連携の強化として、小学校6年生を対象にした中学校体験授業が実施されたが、小中の連続性を重視した学校づくりをこれからも期待したい。
- ・来年度から長期にわたり校舎建て替え工事が始まるが、その間の体育活動や部活動はもちろんであるが、工事による支障を最小限に抑え、十分な教育活動が行えるようにしてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

「知・徳・体」の校訓に基づいた教育を実施することが大切である。未来を生き抜く力とは何かを考え、日々取り組みを振り返り、改善を重ね、課題に取り組むことが大切である。
来年度からは道徳の教科化が始まり、学力の育成だけではなく、教科として人間としての生き方について深く考える授業が展開されることになる。
今まで以上に、より計画的な取り組みをお願いしたい。